

平和・人権
社会・宗教
政治と暮らし
分かち合い

共に生きる

No.55

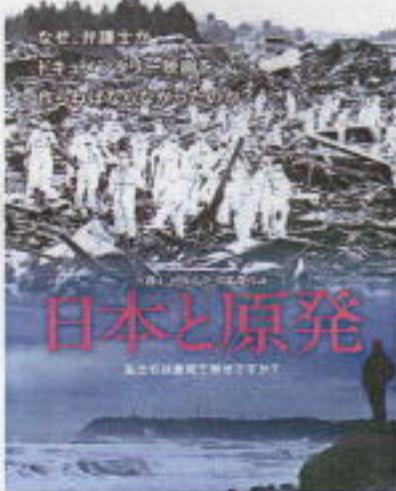
発行/〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10 / 瀬下幸弘 FAX093-622-1290

さつき
皐月
5
2015

ネパール地震の被災者たちに支援を

4月25日の大地震で、インド・中国を含めた犠牲者が5000人を超えています。アジアの中でも最貧国とされるネパール。今最優先として国際社会の支援が必要です。また一人ひとりのできる支援も力となります。

映画「日本と原発」



弁護士が作った映画です

私たちは原発で幸せですか？

5月15日(金)18時～
子どもの館7F(八幡西区)
5月16日(土)13時～
ムーブ大セミナールーム
(小倉北区)
参加費は500円

国民と国会を無視する安倍首相

なぜ「いまだ米軍と一体になりたがるのか」

安倍首相がオバマ大統領と会談し、「日米共同ビジョン声明」が出されました。武力によらない平和を求め、人権を尊重する立場からみると承服できない発表内容です。沖縄辺野古新基地建設に多くの国民が反対しているのに「普天間基地の危険性を除去するのに辺野古移設が唯一の解決策」となぜ言えるのでしょうか。それにとどまらず、新しく法律を作ることでも「グローバル(世界的)な射程を有するようになった同盟を強化」するとしています。つまり、日本の自衛隊が米軍と一体となって地域を問わず戦闘行為ができる道を開こうとしているのです。主権者である国民と国会のなから合意もないうまま、オバマ大統領と話し、ことをすすめることは行政権力の暴走です。日本国憲法前文は「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起きることのないようにすることを決意」しており、安倍首相の声明は憲法を踏みこむものです。戦後レジームからの脱却を掲げた安倍首相の目指すところは、結局米軍と一体となり世界中どこでも戦争のできる国家となることは自明の理です。誰かを殺すために、そして派兵された「自衛隊員」が殺されるための準備には絶対に反対です。また日本軍「慰安婦」問題を「人身売買」とすり替え、日本軍(皇軍)の関与を薄めさせるような言葉だけでは近隣諸国との平和的な解決とはならないでしょう。河野談話の継承とは、日本政府がその責任を認め、謝罪し、償うことが問題解決の第一歩ですから。(4/29)



イラスト 西山進さん

5月のお知らせ

- ◆5月2日(土)下関アムネスティ(下関市民活動センター)…14時
- ◆5月3日(日)9条まつり小倉北区勝山公園10時30～
歌/Sr. 山本きくよさん・北九州うたごえ(雨天ムーブ)
午後1時より憲法集会(ムーブ) 午後1時より
- ◆5月11日(月)原発ゼロをめざす署名行動(JR黒崎駅前)…13時
- ◆5月12日(火)社会福音部会(アドラック) …13時30分
- ◆5月15日(金)映画「日本と原発」(八幡西区こどもの館7階)18時～
5月16日(土)はムーブ(小倉北区) いずれも500円 13時～
- ◆5月23日(土)キリスト者9条守りたい(西南KCC) …14時

世界人権宣言(谷川俊太郎訳)

第4条 奴隷はいやだ

人はみな、奴隷のように働かされるべきではありません。
人を物のように売り買いしてはいけません。

5月11日:イチイチ祈りの会

場所は黒崎教会聖堂、午後7時。
どなたでもお出でください。

4月29日(水) 国立ハンセン病療養所菊池恵楓園を訪問して

2002年から継続して恵楓園を訪問し、今回で14年目です。参加者は10名。産婦人科医師、看護師、元市議、アムネスティ会員、日中友好協会会員、国鉄と20年間裁判をした元国鉄マン、そして中国人青年(女性)などバラエティーに富んだ参加で、5人が初訪問でした。帰路、それぞれが思いを語り合いました。

Fさん: 知らないことばかりで驚きでした。阿部智子さんが謝礼を受け取らずに「ネパールの地震被害で大変な人たちに」と言われたことに、感激しました。これまでの人生で私たちに想像もできないほどの相当な苦勞をされた人だからこそ、人間愛に溢れた方だなあとつくづく感じました。来年も続けていきたいなと思います。

Rさん: 北岡さんが裁判で触れなかった被害と題して現在も社会の中で被害を受けていること、人を作りかえられる被害があると話されました。裁判後、外に自由に出られるようになったが、嫌でしかたがなかったはずの療養所へ帰るとホッとする気持ちになると言われたこと。また社会へ出ていった人も多くは療養所の近くにしか住めない。それは病院の医師から断られることもあり、結局、医療は療養所で受けざるをえなくなるという現実です。富国強兵の名のもとで国策として…は決して過去の出来事ではありません。「戦後」が「戦前」かと思わせる今日、国家とは何か考えさせられます。回を重ねる度に新しさに気付かされます。



Hさん: 初参加です。少しの知識を持って参加したのですが、やはり生の声を聞いて胸が締め付けられる思いでした。なぜこれほどまでに差別されなければならなかったのか、何が根底にあるんだろうかと思っています。外見や物乞いなどの姿なのか、それを恥とみた国、しかしそれが国策に利用されたものがあるというお話を聞いて大変な被害者だったと思います。北岡さんや阿部さんから今の国の状態など話されたので、やはり戦争の無い世の中にしていくことが、2人の思いに応えることではないかと思っています。

Riさん: 中国では自分の周りにこのような人たちもいなかったもので、初めていろんなことが分かりました。中国はあまり医療関係が進んでいないので、村などでハンセン病になってもおそらく一生そこに住むと思います。日本では今は治療もできるのでいいなと思いました。

Yさん: 3回目です。いつも思うのは、国策に国民が引きずられていくことです。原発もTPPもそうですが危険性を感じます。(紙幅の都合で全員掲載できませんでした。謝)



日本軍「慰安婦問題」とは何か

山下明子さんがその問題点を語る(18) 終わり

2013年11月9日 下関講演

※編集の都合上、講演内容の要点を掲載しています。
文責/編集部

前号のポイント

女性は保護の対象ではない。戦時下の女性暴力をなくすには戦争はだめだということ。日本が率先して過去の問題を認め、謝罪し、復興していくことによって国際社会から認められる。自分の国が犯した過ち(日本軍「慰安婦」問題)に蓋をして、世界の国のかわいそうな女性たちのことを話しても国際社会では通じない。

【議会への働きかけ】

京都府議会に続いて京都市議会でも「『慰安婦』問題の早期解決を求める意見書の採択」をと運動をしていますが、実は最大のネックになっているのは自民党でなく民主党です。自民党だけではないということなんです。日本の労働組合が、ILO(雇用・労働条件の改善を目的とした国連の専門機関)問題を含めて、もっと早くに日本軍「慰安婦」問題に関わっていれば、もっと早く解決したことでしょう。

かなり右翼の人たちはこの問題に触れると「国家

の恥部」とか「それは自虐史観だ」と言ったりします。日本の良いところはみるけれども、悪いところは否定する考え方なんです。大変なのですが、(2013年)11月の京都市議会でも、日本軍「慰安婦」問題の早期解決の意見書を採択できるようにしたいと思っています。また、国会でも各地でもチラシを配りながら議会へ働きかけたりして早期解決のために運動をしていますのでよろしくお願いします。

ここ下関は、安倍首相の膝元なので難しいかも知れませんが、ぜひ頑張っていただきたいと思っています。ありがとうございました。(完)

中学生のための「慰安婦」パネル展を開催

2015年6月20日(日)~6月30日(火)
AM9:00~PM5:00

無料

しものせき市民活動センター (JR下関駅 徒歩3分)

■主催: アムネスティ下関グループ

■後援: 山口新聞社 tysテレビ山口 朝日新聞社 (4/30現在)

ある少国民の戦中・戦後

③ 秋吉正子

連続
6回

(三) 勤労奉仕

戦局は悪くなる一方で、昭和十九年には、懐かしいサイパン島がついに玉砕しました。そして戦後しばらくして、親しかったM校長先生が家族だけ日本に帰され、サイパン最期の日には日本刀で自決されたという悲痛な知らせが父のもとに届き、わたしたちは大きな衝撃を受けたのでした。

戦争が長くなると、男の人は次々と戦場に駆り出され、働く人手が不足してきます。中学生や女学生は学徒動員で工場などに働きに行き、わたしたち子どもにも、勤労奉仕の名目でいろんな仕事

が課せられました。農村に住んでいたわたしたちの仕事は、松脂とり、葉草のゲンノショウコ採り、苗代の害虫や、虫の卵取り、それに坑木出し等でした。なかでもいちばん大変だったのが炭坑で使う坑木を、伐り倒されたまま置いてある山からトラックの入れる道まで運び出す、坑木出しの仕事でした。

五年生の春も終りのある日、わたしたちは先生に引率されて六年生と一緒に、学校の近くの山へ向かいました。低くてなだらかな山は、近づくについに大きな池が現れて驚きました。池の表面には緑色の藻が浮かび、不気味に静まりかえっています。

その頃、わたしたちのクラスに、朝鮮人の姉妹が転入してきていました。学校に通えない事情があったのか、二人とも歳が上で体格もよくて、クラスのために率先して働き、みんなをよく助けて

くれていました。

その日、姉のキセンさんは「坑木出し」と聞く上機嫌になり、はしゃいでいました。山に着くとキセンさんは軽々と坑木を担ぎ、早足でさつきと歩くのです。わたしもつられて、キセンさんの後に続きます。早足のわたしたちは、前の人を次つぎと追い越して行きました。おしゃべりしながら、だらだらと歩いている友だちを見ていると、わたしは腹が立ってくるのでした。この人たちはどうしてもっと一生懸命運ばないのだろう。先生はいつも「今は日本の国にとっていちばん大事な時です。兵隊さんは戦地でお国のために血を流し



▶「木炭運びの少女・昭和十七年頃」
疲れたからだを休めるひととき。
おしゃべりも許されなかった。たわらに
さした山ゆりの花に乙女心が。



▲「子どもたちによる木炭運び」
全国の山村では増産を義務づけられ、小学生まで動員されました。



▶「養蚕農家への勤労奉仕」
勤労動員から除かれた国民学校の子どもたちも、貴重な働き手でした。

写真と文は「子どもたちの昭和史」より(大月書店)

て戦っているのですよ。あなたたちもしっかり働かねばなりません」と言われていて、よい少国民にならなければ、という思いがいつもわたしを突き動かしていたからです。

わたしたちはますます坑木運びに熱中し、調子づいたキセンさんは、もっと早く運ぶ方法はないかと考え、無謀にも山の斜面をまっすぐに下りはじめたのでした。下りているうちにスピードが加速され、下の道に達した時にはもう止まれません。キセンさんの大きなからだは坑木と一緒に宙を飛び「ドボン」とあたりの静けさを破る大きな音と共に、水しぶきを上げて池の中に落ちたのです。

池の中に沈んだ後、浮かび上がってきたキセンさんは慌てもせずゆっくりと岸へ向かって泳ぎ、心配してオロオロしているわたしたちを後目に、自力で這い上がったのでした。

驚いて集まってきた多勢の友だちや先生にとり囲まれて、まるで英雄のようなキセンさんは照れ笑いをしながら、しきりに濡れた服の裾を手で絞っていました。

それまでの得意な気持ちが急速に冷めていったわたしは、がむしゃらに働いた自分たちが哀れで、気の毒なキセンさんに慰めの言葉をと思っても、適当な言葉が見つかりませんでした。

敗戦の混乱のなかで新学期が始まって、キセンさん姉妹は再び学校には来ませんでした。日本のために苛酷な運命に翻弄された多くの朝鮮のキセンさんたち。わたしの心に燃えるような優しさと正義感を残して去って行ったキセンさんを、わたしは決して忘れないでしょう。

(続く)

消費税と人権・平和を考える (5)



安永 亮 税理士事務所
安永 亮 所長

今回は、応能負担原則(=負担能力に応じて税負担をする考え方)の具体的な内容のうち②生活費非課税について考えましょう。

憲法25条は、私たちに「健康で文化的な最低限度の生活」を営む権利を保障しています。私たちには「健康で文化的な最低限度の生活」を営むために必要な生活費が保障されなければなりません。もし**最低生活費程度以下の所得しかない人たちにも課税したら、どうなるでしょうか。国は「健康で文化的な最低限度の生活」を私たちに保障する義務を放棄していると言わざるを得ないでしょう。**

したがって、一定の金額を所得金額から除外(=所得控除)して課税対象(=課税所得金額)を計算するということは、最低生活費を保障し、個々人の担税力を考慮するという大切な役割を担っています。

現行の所得控除のうち生活費非課税に関わる控除は、基礎控除、扶養控除、配偶者(特別)控除です。

雑損控除、医療費控除、障害者控除、寡婦(夫)控除、勤労学生控除は、個人に一定の状況が発生することで担税力が一層弱まることを考慮した控除です。

社会保険料控除は、公課である社会保険料等に重ねて課税しないための控除です。

小規模企業共済等掛金控除、生命保険料控除、地震保険料控除、寄附金控除は、特定の政策目的を推奨するための控除です。

基礎控除は、1947年度から1988年度まで22回

引き上げられて4800円から35万円となりましたが、1994年度の改正を最後に38万円に据え置かれたままです。

配偶者控除は、1961年度から1988年度まで16回引き上げられて9万円から35万円となりましたが、1994年度の改正を最後に38万円に据え置かれたままです(一定の年齢について加算あり)。

扶養控除は、1950年度から1988年度まで1万2千円から金額・内容の度重なる改正で35万円となり、1994年度の改正を最後に38万円に据え置かれたままです(一定の年齢について加算あり)。

1989年の消費税導入後、生活費非課税の基礎となる所得控除が1994年度から20年以上増額されていないどころか、2004年分から老年者控除が廃止され、2011年分からは16歳未満の子供の扶養控除も子ども手当の支給を理由に廃止されました。最近では、配偶者控除の見直しさえ女性の活用のためなどと議論されています。

消費税導入から今日まで、そもそも「健康で文化的な最低限度の生活」に必要な生活費には課税してはいけないという考え方が意識されなくなってしまいました。所得控除をそのときの経済政策・社会政策等と絡めて議論し、縮小・廃止を正当化する風潮が強まりました。

今回は③の総合課税についてです。

《アムネスティ》下関通信 (No. 13)



6月末にアムネ下関主催(共催アムネ山口・アムネ宇部)で、「日本アムネスティ中四国交流会」を行います。プログラムは「中学生のための“慰安婦”パネル展・映画・講演」(「慰安婦問題全国行動」製作パネルと中国慰安婦についての映画監督・作家、班忠義氏による映画と講演)。市民の方々にも広く呼びかけることとし、チラシは5月連休明けに完成します(パネル展6/21~30市民活動センター、映画と講演6/28下関駅ビル「リビエ」3F)。

準備中に驚くべきニュースが入りました。埼玉県新座市が同じパネル展に市の施設使用を拒否したのです。理由は①啓発的事業である②世論が二分している③中学教科書に載っていない。ただちにアムネスティ日本初め**36**市民団体(含ドイツ、下関の人権誌「海」も。今や**40**団体に)が抗議の声をあげ、主に以下3点による「開催を求める要望書」(全4p)が新座市に届けられました。



①「人権教育、人権啓発に関する法

律」(2000年)は地方自治体の「啓発責務」を決めている。②日本政府は「河野談話」の踏襲を公式見解としている。世論二分の時は、国民の「真実を知る権利」に応じるべく「社会教育法3条」により「パネル展」は許可されるべき。世論二分は拒否の理由にならない。③'97年の全中学教科書に「慰安婦」は掲載されている。「河野談話」は「歴史教育を通じて永く記憶する」と明記している。教科書に載せないこと自体が継承違反。

以上いずれも拒否する正当理由にはなり得ないと論破しています。今年が中学教科書改訂年です。新検定基準で政府寄り歴史観が強められているとのこと。本来「歴史」とは、政府が変われば変わるものではありません。「慰安婦」運動は専門家の説以上に「金学順」さん(最初に名乗りでた女性)たちの証言の力から形成されてきています。(2015.4.27 アムネ下関、山県)

いざ出陣! (沖縄 中)

1歳4ヶ月になったR君。4月から保育所に入園しました。まずは出で立ちからと、ネクタイ&サスペンダー(ご年輩の方はつりズボンと呼んでます)で決めました。かっこよくなったR君でしたが、初めての一人旅で1週間はずっと泣きっぱなしでした。大丈夫かな?と心配する私でしたが、ようやく昼間の兄弟となかよくし始めました。その調子、その調子。がんばってね。



ツイッター

心に残っている記事 (北九州Mさんより)

それぞれにありますが、山下明子氏の“日本軍「慰安婦」問題とは何か”です。その中で安倍首相の国連演説で拍手がなかったそうです。ドイツの故ヴァイツゼッカー元大統領の演説が、心に浮かんで来ました。「荒野の四十年」を安倍首相に読んでいただきたいと思いました。

息がぴったし合った (S)

雨天で「歩こう会」が中止。それでも連絡が届いていなかったらと思い貯水池駐車場で待っていると知的障がいのあるM君がきた。手をつなぎ1時間半5.3kmを歩いた。「M君、歌をうたおう」。すると彼はカラオケ風やらいろんな曲をずっと口ずさんだ。私の知っているものは何一つ無い。別々の曲を口ずさんで歩いた。あと少しでゴールのとき私は「五木の子守唄」を。するとM君も一緒に。「やったね～。一緒に歌えたやん」もしかしてと次は「炭鋤節」。これまたばっちり重なった。来年歩くときは民謡でいこうね。

4月号感想です (山口の横)

秋吉さんの手記の中で♪兵隊さんよありがとう♪は他の軍歌と共によ〜く歌いました。あの頃は子どもで何もわかりませんでしたから、教師の云われるのはすべて正しいと従ってました。「軍歌と共に育てられ」ました。沖縄は、戦中から現在まで犠牲になって居られること、本当に申し訳ないです。

いい勉強をさせて頂いていること感謝。

物言わぬ証言者 (R)

大刀洗平和記念館で、零戦や特攻隊、映画など観てきました。平和を訴えるというよりか、戦闘機の素晴らしさなど誇らしげに展示しているように感じました。2階では戦後70年企画展として「物言わぬ証言者—遺物が語る沖縄戦」の写真展が。これこそ平和を語るに相応しいものです。ガマと呼ばれる自然豪の中に遺骨や遺品が眠っています。見応えのある写真展です。ぜひ見てほしいです。6月29日まで。

第5回北九州9条まつり! まもなく

戦後70年、今こそ憲法9条を

とき: 5月3日(日) 10時30分~12時30分

ところ: 勝山公園芝生広場

(雨天の場合はムーブ5階大セミナー室)

歌のゲスト: シスター山本きくよ(援助修道会)他

午後1時から北九州憲法集会

ムーブ2階ホール

安倍コベ改憲ゆるさない!!

講演/木村草太さん

(首都大学東京准教授)

参加協力費500円



(写真は実行委員会チラシより)

ご案内

分かち合いのひととき

虹の会

4月26日 19名参加

次回2015年5月24日ミサ後。
どなたでもご参加ください。

— 戦争は人間の仕業です。戦争は死です。。。各国の元首、政府首脳、政治・経済上の指導者に次のように申します。人類同胞に向かって、軍備縮小とすべての核兵器の破壊とを約束しようではありませんか。 —

ヨハネ・パウロⅡ世の平和アピールより

「2002年長崎のテレビ局制作ハイビジョンスペシャル「原子雲の下に生きて」～長崎の子57年の軌跡～」を観て分かち合いました。

70年前、原爆投下後の長崎の様子に言葉を失いました。また、当時小学生だった方々の57年後の歩み

が紹介されました。

「人間の尊厳が損なわれる扱いを受けた。私にとって、戦争はまだ終わっていない。」と話される姿がとても辛かったです。」などの感想が分かち合われました。

東アジアの平和と福音的展望

韓国国民1%の済州島民と東アジアの平和実現を夢見ながら



カトリック韓国済州教区長

カン・ウィル司教

※文責／編集部

(7)

因よりもチエジュ島民が長く生きてきた現代歴史の本当に痛ましい重荷と、彼らが背負ってきた傷のためなのです。

太平洋戦争が終わり、1945年韓国は日本の植民地支配から独立しました。しかし、独立の喜びは束の間で、韓半島は北はソ連軍、南はアメリカ軍が進駐したため、依然異邦人の支配下に置かれました。そして韓半島はアメリカとソ連の主導権争いにより、右翼と左翼のイデオロギー的勢力の争いが激突する場となりました。その結果、チエジュ島の島民が決して忘れることのできない4・3(よんさん)事件という大惨事が引き起こされてしまいました。

チエジュドは火山地帯で稲の農作は難しくお米はごく少量しか採れない、農地としては適していない地です。主な農産物は麦や小麦、野菜類、水産物など、小規模農業と水産業でほとんどの住民が生計を立てていました。ですから、経済的富を蓄積できる環境ではなく、そういう人たちもあまりいませんでした。島民の大半が庶民階級といえます。言語も、文化も、沖縄が日本と違うように、チエジュドも韓国本土とはかなり違いがありました。韓国本土から派遣された官僚達にとって、チエジュドという島は自分たちの国ではないかのような異質感を持たれる島国でありました。

1948年2月、国連総会では韓半島の可能な地域だけでも選挙による新しい独立政府を樹立しようという決定を可決しました。それによって1948年5月10日、38度線の南半分だけで総選挙が行われました。ところがチエジュドでは、南半分だけの選挙には同意しない、そういう世論が起き始めました。(続く)

編集後記

“連載が長過ぎるのでは”との意見も頂いた「日本軍『慰安婦問題』」が終了。長期連載の理由は、この問題が日本社会から消し去られようとしている流れがあり、決してそうさせてはならないとの思いから。山下さんが講演最後に「安倍首相の膝元で難しいかもしれないが…」(p2)と。たしかに議会を動かすには困難さが。しかし市民は黙っていません。首相の膝元で10日間の「慰安婦」パネル展、その間の6月28日(日)には中国人の「慰安婦」映画上映とその制作者の講演も準備中。この企画に朝日新聞社とテレビ山口も後援しています。読者のみなさんにもぜひ観てほしいのです。無料です。(瀬下)

2007年から基地建設反対運動キャンペーンを始めて8年が経ちましたが、もし私たちが反対しなかったのなら数年前に完成されていたと思います。その間、建設を阻止するために大勢の人たちがたくさん犠牲を払ってきました。聖職者、修道者、信者、他の宗派の方々、多くの人々が逮捕され、裁判にかけられ、ある神父は何ヶ月も刑務所に入れられました。ほんとうに大変な時でした。住民たちも刑務所生活をした人たちがおります。そしてカシジョン村のほとんどの人たちが何かの口実で罰金を課せられ、その総額が何億ウォン以上という住民たちがとても払いきれない額なのです。それで市民団体が一緒になって罰金を肩代わりしようという運動を広げております。過去8年近く、いろんな試練があり大変でしたけれど、今振り返ってみますと、一つはチエジュ教区の司祭そして共同体みんなが平和とは何かについて、以前は考えなかった次元にまで深く考え、行動し守っていきこうという意識変化へと随分進むことが出来ました。それだけは神様に感謝しています。そして今でも毎日、工事現場前の路上でミサが行われています。全国各教区からいろんな方々が毎日訪れて、一緒にミサに参加して下さいます。そして住民たちにとってそのミサが唯一の支えというか、海軍基地反対のシンボルになっています。

「チエジュ島、戦後の歴史 4・3事件」

私がカトリック教会の司教としてチエジュドの新しい海軍基地建設に反対せざるを得なかったのは、何か国際関係とか環境的要